

# 市街地における神社の緑の見え方に関する研究 —東京都新宿区を対象として—

1X07D025-3 金子 玲大※

Reo Kaneko

現代の東京ではその時代時々の様々な意匠の建造物が高密度に乱立し、景観資源となりうる神社が建造物により埋もれて見えなくなることも多い。そのような状況の中で本研究では新宿区を対象として建造物に囲まれた神社の見え方を、可視の視点数と神社の緑特有の見え方を把握することで明らかにした。その結果、神社の敷地面積が大きければ神社の緑の可視の視点数が多いということと、建造物の背後に神社の緑が見える視点は地形による高低差が大きいということが分かった。また、境界部の緑の見え方を類型化し、それぞれの型の特徴を明らかにした。

*Keywords* : 神社の緑、景観、可視

## 1. 研究の背景と目的

### 1-1 研究の背景

東京都新宿区のような都心部を歩いていると、繁華街の高層ビルの間から神社の緑が顔を見せている姿や、住宅の背後に神社の緑が広がっている姿に出くわすことがある。建造物に囲まれながらもそのような眺めは無秩序に高密度化した都心部において特異な空間を形成している。

江戸名所図会を見ても分かるように、江戸時代に江戸の近郊農村でもあった新宿区の神社は、周囲から見られやすい存在であったと考えられる。このことは、南方熊楠が同じく農村であった和歌山県において神社合併反対において「大字毎の神社は、欧米の高塔と同じく、村落の目標となる大功あり」と見え方の側面から神社の効用について述べていることから推測できる<sup>1)</sup>。

しかし高密度に神社の緑よりも高い建造物が建ち並ぶ新宿区においては、人々に認識されやすいランドマークとしての神社の機能は期待することができず、建造物に埋もれて多くの人々の意識に昇らないほど存在感が低下し、神社の緑があることの意味を考えることすら難しくなる。

神社はほとんどの人が出入りできる都市の公共空間のような性格を持っているが、私有地であるため境内敷地の転用を神社の敷地の所有者が決めることができ、さらに収入源である氏子コミュニティが崩壊してきていることから敷地を転用している神社も多く見かけられる。このような現状において今後の神社の緑の意義とあり方を考えるために見え方の観点から神社の緑を把握することは意義があると言えよう。



図 1-1 諏訪明神社（現諏訪神社）出典：『江戸名所図会』

### 1-2 研究の目的

以上の背景から本研究では、

- ①神社の緑が可視である街路上の場所と地点数を明らかにし、面積との関係を見る。
- ②神社の緑の特有の見え方である、境内と敷地の境界部の緑の存在形態を類型化し、特徴を明らかにする。
- ③建造物の背後に緑が見える特殊な視点を抽出する。

以上の3点を行うことにより、新宿区内の神社を対象として周辺街路からの神社の緑の見え方の実態を把握することを目的とする。

## 2. 既存研究の整理および研究の位置づけ

### 2-1 既存研究の整理

神社の緑に関する研究はこれまで数多くなされているが、4つに大別することができる。

#### (1) 神社の緑の立地に関する研究

刀根ら<sup>2)</sup>は境内緑地の空間的分布や形態的特徴を、近隣地

域からのアクセスに着目し、都市内における寺社境内林は小規模で多数存在し、身近な緑地として存在していることを示している。藤田ら<sup>3)</sup>は東京都心部において社叢と周辺の緑地の連担性に着目し、地形の変曲点であれば連担性が高いことを示している。

### (2) 神社の緑の存在形態に関する研究

是澤ら<sup>4)</sup>は社寺林に対する近代以降の保護制度と樹木の種類と構成に着目し、神社の維持管理に必要な資材としての樹木が一つの自然環境保全の在り方であることを示している。清水ら<sup>5)</sup>は神社の緑の存在形態と変化を把握するために、名所図会に描かれた緑と現在の神社の緑の空間特性を比較し、分析している。

### (3) 参道の構造に関する研究

斎藤<sup>6)</sup>は神社参道を構成する部分空間（鳥居、拝殿など）相互の関連性に着目して参道空間の空間構成を明らかにし、デザイン手法を抽出、整理している。岡村ら<sup>7)</sup>は都市空間遺産として神社境外の参道の空間的な特徴と歴史に着目し空間的特質を考察している。

### (4) 緑の見え方に関する研究

荒木ら<sup>8)</sup>は大阪府における緑の現状を広域な分析によって緑の分布と変遷を把握し、狭域な分析によって人が街路上で緑をどの程度の距離まで見られるか分析している。

## 2-2 本研究の位置づけ

本研究では神社の敷地面積、周囲の街路と地形を考慮して都市における神社の緑の見え方の実態を明らかにする。

## 3. 調査方法

### 3-1 対象の選定

本研究では、対象地を新宿区とし、東京都新宿区内に存在する全ての神社43箇所を調査対象とする。以下、表3-1に調査神社の一覧、図3-1にその分布を示す。

表3-1 調査神社一覧

番号	名称	番号	名称	番号	名称
1	赤城神社	16	北野神社	30	天祖神社
2	筑土八幡神社	17	秋葉神社	31	水稲荷神社
3	神楽坂若宮八幡神社	18	花園神社	32	葛谷御霊神社
4	岩戸稲荷神社	19	秋葉神社	33	中井御霊神社
5	市谷亀ヶ岡八幡宮	20	大京神社	34	月見岡八幡神社
6	茶木稲荷神社	21	樹箕神社	35	氷川神社
7	巖嶋神社	22	須賀神社	36	東山稲荷神社
8	出世稲荷神社	23	田宮神社	37	下落合?財天
9	八兵衛稲荷神社	24	多武峰内藤神社	38	鐘神社
10	宝祿稲荷神社	25	雷電稲荷神社	39	成子天神社
11	天祖神社	26	金丸稲荷神社	40	熊野神社
12	池立神社	27	穴八幡神社	41	皆中稲荷神社
13	天祖神社	28	諏訪神社	42	鬼王神社
14	両社稲荷神社	29	天祖神社	43	西向天神社
15	元赤城神社				

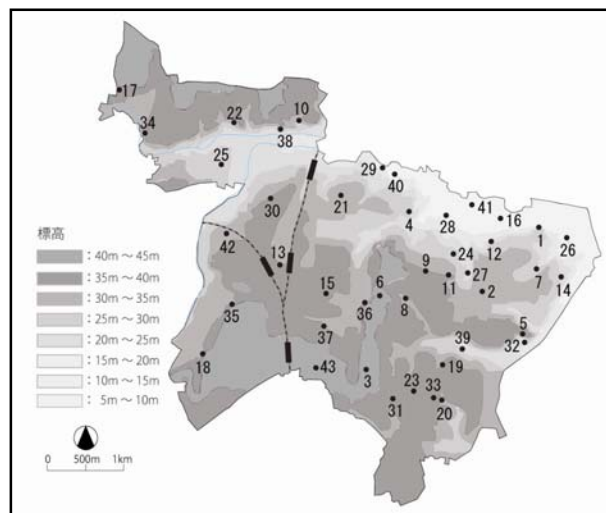


図3-1 新宿区の地形と神社の分布

### 3-2 調査方法

まず、神社の敷地規模を把握するために東京都2500デジタルマップ地図<sup>9)</sup>を用いて神社の敷地面積を調査する。次に神社の立地条件である周囲の地形、用途地域、建造物の階数、神社の接道数と神社に突き当たる街路数の5項目を調査する。その後現地に行き、社域の構成要素を調べ、定められた地点の計807箇所から写真撮影を行う。地点はGISアプリケーションであるMapInfoProfessionalを用いて、神社の敷地の境界を起点に10m間隔に同心円を10個作成し、その同心円と街路の交点を撮影地点とする。街路が歩道と車道に分離している場合、両側の歩道と同心円の交点を視点とする。

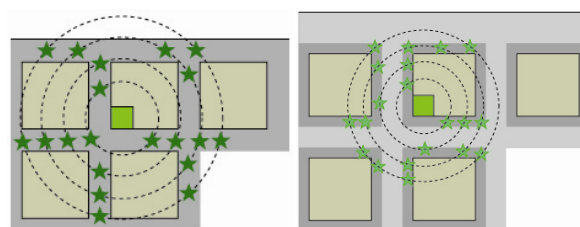


図3-2、3 視点の概念図 (a)歩道が分離していない街路、(b)歩道と車道が分離している街路)

## 4. 調査結果

### 4-1 調査結果データ

地図調査と現地調査によって得られた結果を以下の表に示す。まず、神社の敷地面積の大きさで小規模、中規模、大規模の3つのタイプに神社を分類した。

表中の①の可視点数は、街路と同心円の交点から見えた視点の数、②の可視の割合は、可視点数を街路と同心円の交点の合計で除した値、③の面積は地図によって計測した神社の敷地面積、④の接道数は神社敷地に沿う街路の本数、⑤の突

き当たり街路本数は神社敷地に突き当たる街路の本数である。  
境界の緑の見え方タイプは4-4-1で詳しく述べる。

表 4-1 調査データ一覧

分類	番号	神社名	可視分析指標					境界の見え方タイプ							
			①可視 点数(個)	②可視 の割合	③面積 (㎡)	④接 道数 (本)	⑤突き 当たり街 路数(本)	a	b	c	d	e			
小規模	26	金丸稲荷神社	11	16.4%	25	2	0	1							
	37	下落合辨財天	0	0.0%	30	1	0	1							
	4	岩戸稲荷神社	4	5.7%	33	1	0						1		
	25	雷電稲荷神社	14	25.0%	33	3	0				1				
	9	八兵衛稲荷神社	1	1.1%	73	1	0			1					
	20	大京神社	7	16.3%	80	1	0							1	
	16	北野神社	7	7.7%	80	1	1				1				
	14	両社稲荷神社	6	8.1%	100	2	1							1	
	21	榊箕神社	7	13.5%	118	2	2					1			
	17	秋葉神社	7	7.6%	141	1	0							1	
	15	元赤城神社	14	15.7%	141	2	0							1	
	12	池立神社	0	0.0%	168	3	0	1							
	10	宝祿稲荷神社	10	14.1%	208	2	0							1	
	19	秋葉神社	11	12.1%	250	2	0						1		
	平均/合計			7.1	10.2%	106	1.7	0.3	3	0	1	4	6		
	中規模	7	巖嶋神社	46	57.5%	290	4	2							1
		23	田宮神社	18	36.0%	300	1	0							1
		30	天祖神社4	9	15.3%	400	1	0					1		
		11	天祖神社1	10	12.5%	461	1	0				1			
13		天祖神社2	34	37.0%	483	3	0							1	
36		東山稲荷神社	7	17.5%	496	1	1					1			
8		出世稲荷神社	19	34.5%	688	1	0	1							
24		多武峰内藤神社	9	14.1%	858	2	1	1							
41		皆中稲荷神社	22	27.5%	858	3	0		1						
3		神楽坂若宮八幡神社	18	32.1%	924	2	0					1			
平均/合計			19.2	28.4%	576	1.9	0.4	2	1	2	3	2			
大規模	33	中井御霊神社	36	42.9%	1023	3	2		1						
	42	鬼王神社	32	33.0%	1221	3	0		1						
	29	天祖神社3	41	47.1%	1313	2	4		1						
	34	月見岡八幡神社	18	22.8%	1323	3	0				1				
	35	氷川神社	46	44.2%	1650	5	2				1				
	22	須賀神社	34	50.7%	1980	2	1				1				
	32	葛谷御霊神社	33	67.3%	2010	3	0		1						
	2	筑土八幡神社	18	18.0%	2261	2	0			1					
	5	市谷亀ヶ岡八幡宮	4	8.9%	2700	1	1					1			
	38	鐘神社	23	29.1%	3036	2	1					1			
	43	西向天神社	36	37.1%	4290	1	3		1						
	28	諏訪神社	42	57.5%	4524	3	1			1					
	40	熊野神社	43	49.4%	4600	2	0	1							
	1	赤城神社	18	23.4%	4840	2	3			1					
	18	花園神社	50	38.5%	6600	3	4			1					
31	水稲荷神社	5	16.7%	8250	1	0					1				
27	穴八幡神社	38	55.9%	8992	4	1			1						
39	成子天神社	27	23.3%	99000	1	2	1								
平均/合計			30.2	37.0%	8867	2.4	1.4	2	10	6	0	0			

(※市谷亀ヶ岡八幡宮の中にある茶木稲荷神社は除く)

#### 4-2 敷地面積による分類

表4-1より、敷地面積によって3つの神社に分類し、その特徴をまとめた。

##### ①小規模

敷地面積が25～250㎡以下の神社である。敷地面積が小さいために敷地内に神社と呼ぶに最低限必要である本殿と鳥居のみを有している神社か、社務所が敷地面積の半分以上を占めている神社である。そのために境内に1～2本の樹木か、低木の植え込みが緑である神社が多い。

##### ②中規模

敷地面積が250～1000㎡未満の神社である。鳥居、本殿、手水舎、社務所を有する神社が多く、緑の形態は様々である。

##### ③大規模

敷地面積が1000㎡以上の神社である。本殿や鳥居に加えて、祭時に使用する神楽殿や神輿庫がある神社が多く、境内の参道脇や本殿の背後に10m以上の複数の樹木が生えていることが多い。

#### 4-3 神社の面積別の視距離毎の可視点数

以下に神社の視距離と視点数の関係を示す。

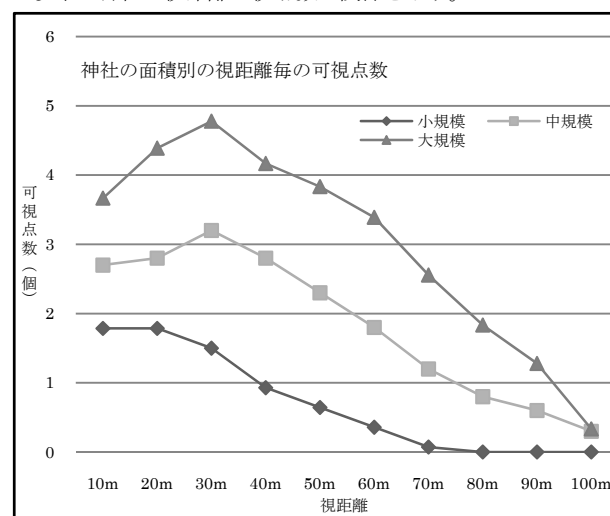


図 4-1 可視点数と視点の距離

上のグラフより、各タイプの10m毎の可視点数は神社の敷地面積の規模が大きくなるにつれ、多くなることがわかる。

#### 4-4 神社の緑特有の見え方

神社の緑が有していると思われる見え方を境界部と、建物越しに見える緑の2つの観点から把握する。

##### 4-4-1 聖と俗の境界部としての神社の緑

参道は神社へのアプローチ路であり、その本質の一つは、参道空間が沿道空間から隔離していることである。従って参道とその外の空間との境界部は神社にとって重要となる。

本研究では境界部の中でも、神社へアプローチするための起点である鳥居がある神社の前面の境界部の緑に特に着目する。新宿区内の神社においては35の神社において鳥居がある前面の境界部に緑が存在することがわかり、4つのタイプに分類することができた。表4-1においてaが緑無し型、bが繁茂型、cが門柱型、dが単木型、eが生垣型である。

### a. 緑無し型

境界部に緑が無い神社。



図4-2、4-3 下落合辨願寺、成子天神社

緑無し型は鳥居が沿道空間に面していない神社も含め、7あり、いずれの規模の神社にも存在する。敷地面積が小さすぎるために樹木の生えるスペースが無いことなどが理由として考えられる。

### b. 繁茂型

鳥居を覆うほど樹木が茂っている緑を有する神社。



図4-4、4-5 諏訪神社、花園神社

繁茂型は11あり、中規模の皆中稲荷神社を除いた10の神社が大規模の神社に当てはまる。周囲が緑よりも高いビルに囲まれていても街路にはみ出すほどの緑量を持つ神社が多く、平均で33.3の可視点がある。

このことから繁茂型の神社は広範囲に聖と俗の境界を認識させる。さらには緑量が多く、鳥居の一部を覆っているため、全貌を知りたいと思う観察者の前進を促す「誘い」の手法として位置づけることができる。「誘い」は鳥居から本殿まで至る過程で大神神社の参道などに見られるデザインの手法だが<sup>6)</sup>、本研究では都市における神社の緑の把握、存在意義の再考を目的とするため、鳥居に向かう街路も広義の参道と解釈することにする。

そのように考えて表5-1の突き当たり街路数を見ると、その内、繁茂型の神社の鳥居に向かって突き当たる街路を有する神社は、中井御霊神社、天祖神社3、葛谷御霊神社、西向天神社、赤城神社の5つである。この5つの神社は緑量が多いことに加え、周囲を建造物に囲まれていたとしても神社の緑という性格が故の特色を色濃く持っているために都市において特異な存在であると考えられる。

### c. 門柱型

入口を示す門柱のような役割を果たす緑を有する神社。



図4-6、4-7 神楽坂若宮八幡宮、八兵衛稲荷神社

門柱型は9あり、その内、6の神社が大規模の神社である。神社の緑は入口を示す門柱のような役割を果たす。街路にはみ出すほどの緑量は無く、平均で15.2の可視点がある。

### d. 単木型

鳥居のすぐ背後に単独で存在する緑を有する神社。



図4-8、4-9 秋葉神社、雷電稲荷神社

単木型は7あり、大規模にこの型はない。平均で14.4の可視点がある。

### e. 生垣型

一種の壁となるような背の低い緑を有する神社。



図4-10、4-11 元赤城神社、岩戸稲荷神社

生垣型は8あり、その内6の神社が小規模の神社である。平均で13.7の可視点がある。

### 4-4-2 建物越しに見える神社の緑

新宿区の神社は全ての神社が隣か、街路の向かい側の建造物に囲まれており、視点と神社の緑の間に建造物がある場合、ほとんど見ることができない。しかし、神社の立地している場所が高低差の大きい崖地の端部にある特殊な条件を持つ8

つの神社(表4-1で灰色のセルの神社名)の緑は視点と神社の間に建造物があっても見ることができる。鎧神社を除く全て神社は神社と視点の高低差が4m以上で敷地から20m~100mの地点で見ることができる。



図 4-12 東山稲荷神社, 中井御霊神社, 須賀神社, 鎧神社, 西向天神社, 諏訪神社, 水稲荷神社, 穴八幡神社



図4-13 建物越しに見える神社の緑の視点(中井御霊神社)

## 5. 結論

本研究の成果は以下の3点である。

- ①神社の敷地面積で3つのグループに分類したところ、大規模な神社の方が周りから見えやすいということを明らかにした。
- ②敷地境界部の神社特有の見え方を類型化し、大規模神社の特異な見え方を明らかにした。
- ③建造物の背後に神社の緑が見える場合、神社と視点の高低差が4m以上で敷地から20m~100mの地点で見ることができる。

### <参考文献>

- 1) 中村良夫:風景学入門, 中公新書, 2001
- 2) 刀根令子, 浅見泰司, 及川清昭:東京における寺社境内の都市緑地環境への貢献:GIS-理論と応用No13:2005
- 3) 藤田直子, 熊谷洋一:GISを用いた地形と緑の連続性の分析による社会空間を軸とした都市緑地の配置特生:都市計画論文集No41-3:2006
- 4) 是澤紀子, 田中稲子, 堀越哲美:景観として神社こみる自然環境保全の在り方, 日本建築学会論文集第598号, 2005
- 5) 清水美砂, 上甫木昭春:「摂津名所図会」と「和泉名所図会」に描かれた神社の緑の存在形態とその変化に関する研究, 日本都市計画学会都市計画論文集No. 41-3,
- 6) 斎藤朝:神社参道の空間構造に関する研究, 日本都市計画学会都市計画論文集No24, 1989
- 7) 岡村裕, 北沢猛, 西村幸夫:境外参道の空間特生に関する研究, 日本都市計画学会都市計画論文集No40-3, 2005
- 8) 荒木実穂, 吉川眞, 田中一成:大阪府と大阪市の緑, 景観・デザイン研究叢書集
- 9) 東京デジタルマップ株式会社2004/10月発行